

折に触れ 四字熟語

NO. 200 『先憂後樂』 せんゆう こうらく

< 意味 > 常に民に先立って国のことを心配し、民が楽しんだ後に自分が楽しむこと。北宋の忠臣
はんちゆうえん
范仲淹が為政者の心得を述べた言葉。転じて、先に苦勞・苦難を体験した者は、後に安樂
になれるということ。

< 出典 > はんちゆうえん 范仲淹 がくようのろうき 「岳陽楼記」

表 言 : 先憂後樂を心掛ける

用 例 : 大体において先憂後樂の方針で行かないと、部員は仕事はやってくれるものではない。
< 扇谷正造・鉛筆ぐらし >

語 釈 : 「憂」は心配すること。

一 言 : この度の選挙で当選した政治家一人ひとりがこの熟語のような思いをもって活動して欲しい
と思います。「後樂園」「後樂園球場」の語源です。

なお、この「折に触れ四字熟語」も2016年4月の初回以来、今回で200回を迎えました。
小俣代表の厳しいチェックと的確なアドバイスを貰いながらここまで来ることが出来
ました。これからも、できるだけ時勢を反映した熟語を皆様にお届けできればと念じていま
す。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」